〔様式1〕

平成１９年度　事 務 事 業 評 価 表

記入年月日	平成19年4月9日	記入者		連絡先	748-1133
平成１８年度部名	環境事業部	課名	南清掃工場	課長名	松本
平成１９年度部名	資源循環部	課名	南清掃工場	課長名	松本
事務事業名	南部粗大ごみ受入施設運営事業				
予算上の事務事業名	粗大ごみ等収集事業　粗大ごみ受入施設運営事業				

1 総合計画における位置づけ	施策コード　21210
基本目標	Ⅱ「ゆとりある　みどり豊かな環境共生都市」をめざして
政策名	第１章　人と自然にやさしい地域社会をつくります
基本施策名	第２節　リサイクル型社会の構築
施策名	第１施策　リサイクルシステムの構築とごみの減量化・資源化の推進

2 実施根拠及び関連法令・条例・規則・要綱等

廃棄物の処理及び清掃に関する法律
相模原市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

3 個別計画の概要

計画名				概要
計画年次	年度～		年度	

4 事業形態の区分　施設運営

5 事業開始年度　平成13年度

6 事業概要

（１）事業の目的（何のために行うのか、またはもたらしたい成果）

粗大ごみ受入施設ごみ排出量の増加に伴う、処理施設のある北清掃工場の混雑解消や一般市民の安全確保、また家電リサイクル法の施行に伴い生じた自治体の経費負担を保管場所を確保し集中運搬することにより効率化を図り抑える。

（２）対象（誰、何）

市民

（３）平成１８年度事業の内容（活動）・・・いつ、どのような方法で実施した内容（活動）なのか。

南部粗大ごみ受入施設の運営に必要な光熱水費の支払、各委託等を行なった。
平成１８年度
粗大ごみ持込件数　６９，１８８件(見込)
粗大ごみ等処理手数料　２９，２８３，７２０円（見込）

7 関連事業・類似事業又は他市の状況

南部粗大ごみ受入施設のほか、北部粗大ごみ受入施設がある。また粗大ごみの戸別収集を実施している。

8 事業費の推移

〔単位：千円〕

年度	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
事業費	34,315	35,646	34,135	35,292	35,292
一般財源	7,182	6,667	4,851	6,462	6,462
受益者負担金	27,133	28,979	29,284	28,830	28,830
その他の特定財源	0	0	0	0	0
人件費の合計	4,370	4,367	4,374	4,345	4,345
事業コスト合計	38,685	40,013	38,509	39,637	39,637

9 事業効率・・・活動単位当たりの事業効率

事業名（主たる事業名）	粗大ごみ受入施設運営事務（各委託、光熱水費等支払事務）	対象名称と単位	搬入件数（件）

年度	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
事業コスト(主たる事業)	38,685	40,013	38,509	39,637	39,637
対象数	53,389	60,730	69,188	0	0
単位あたり経費(円)	725	659	557	#DIV/0!	#DIV/0!
前年度比		0.91	0.84	#DIV/0!	#DIV/0!

１０ 活動指標・・・実施した内容（活動）を数値化したもの

指標名と単位	受入施設直接持込粗大ごみ排出量（kg）	指標式と指標の説明	南北受入施設への直接搬入１件あたりの粗大ごみの排出量（受入施設粗大ごみ量÷搬入件数）

	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
実　績	40.9	37.7	34.8		
目　標	48.7	49.3	50.5	50.4	50.4
目標達成度（％）	84.0	76.5	68.9		

１１ 成果指標・・・もたらしたい成果の達成度を数値化したもの

指標名と単位	粗大ごみ処理量（ｔ）	指標式と指標の説明	北清掃工場で処理した粗大ごみ量（戸別収集及び直接搬入された粗大ごみ）

	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
実　績	6059.0	6218.0	6375.0		
目　標	6684.0	7285.0	7886.0	8488.0	9089.0
目標達成度（％）	90.6	85.4	80.8		

１２ 個別評価

（１）妥当性の評価　〔A：妥当である・B：妥当性に課題がある・C：妥当でない〕

A

- ☐ ・法令、条例により実施することが義務付けられている。
- ☑ ・法令、条例に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。
- ☑ ・公益性が高い、または必需性が高い事業である。
- ☑ ・将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。
- ☑ ・税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。

（２）有効性の評価　〔A：有効である・B：有効性を高める余地がある・C：有効でない〕

A

- ☐ ・上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。
- ☑ ・課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。
- ☑ ・成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。
- ☑ ・事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を享受している。

（３）効率性の評価　〔A：効率が良い・B：効率性を高める余地がある・C：効率が悪い〕

B

- ☑ ・単位あたりの経費は適正である。
- ☐ ・再任用や非常勤職員などを活用しても、これ以上のコスト節減の余地がない。
- ☐ ・受益者負担や補助等の割合に問題はない。
- ☑ ・事業の実施方法や実施体制は適正である。

（４）民間活力または市民協働の導入の可能性〔有・無〕

無

- ☐ ・業務の一部または全部について、民間で実施する方が適している。
- ☐ ・業務の一部または全部について、市民協働により推進する方が適している。
- ☑ ・業務の一部に民間委託を導入しているが、さらに民間委託を導入しても効果が見込めない。
- ☐ ・市で実施する方が民間委託等をするより適している。

１３ 総合評価（一次評価）

（１）自動判定結果

★★★

- 〔★★★★〕：良好な状態を維持する事業
- 〔 ★★★ 〕：概ね良好な状況である事業
- 〔 ★★ 〕：見直しを行う必要がある事業
- 〔 ★ 〕：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業

（２）事業所管課長による評価（今後の方向性）

現状維持

- ☐ ・拡充・充実
- ☑ ・現状維持
- ☐ ・見直し
- ☐ ・廃止

（３）事業所管課長の評価に関する説明

施設運営に係る経常的な事務であり、現状維持とする。ただし、粗大ごみの持ち込み件数が年々増加しており、受入施設の負担が大きくなっていることから、施設運営のより一層の効率化を図るため、今後、市としての方向性を検討していく必要がある。

１４ 成果向上及び効率性を高めるための方策

施設の規模に対して搬入件数が非常に多く施設内や周辺道路が混雑し、業務が円滑に進まないことがある。施設のハード面について検討する必要がある。

１５ 課題として認識されたこと

粗大ごみ受入施設は市民にとって便利な施設であり、ごみ搬入件数は年々増加している。粗大ごみ受入施設の効率化を図るとともに、持込が集中する時期等にも対応可能な施設の拡充・充実について研究したい。

１６　二次評価

（１）局内評価会議による評価　（今後の方向性）

現状維持

- ☐ ・拡充・充実
- ☑ ・現状維持
- ☐ ・見直し
- ☐ ・廃止

（２）二次評価コメント